

季刊
秋号



博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <https://general-museum.fcs.ed.jp/>

134

秋の企画展

あにまるぞ
ANIMAL×ZOO

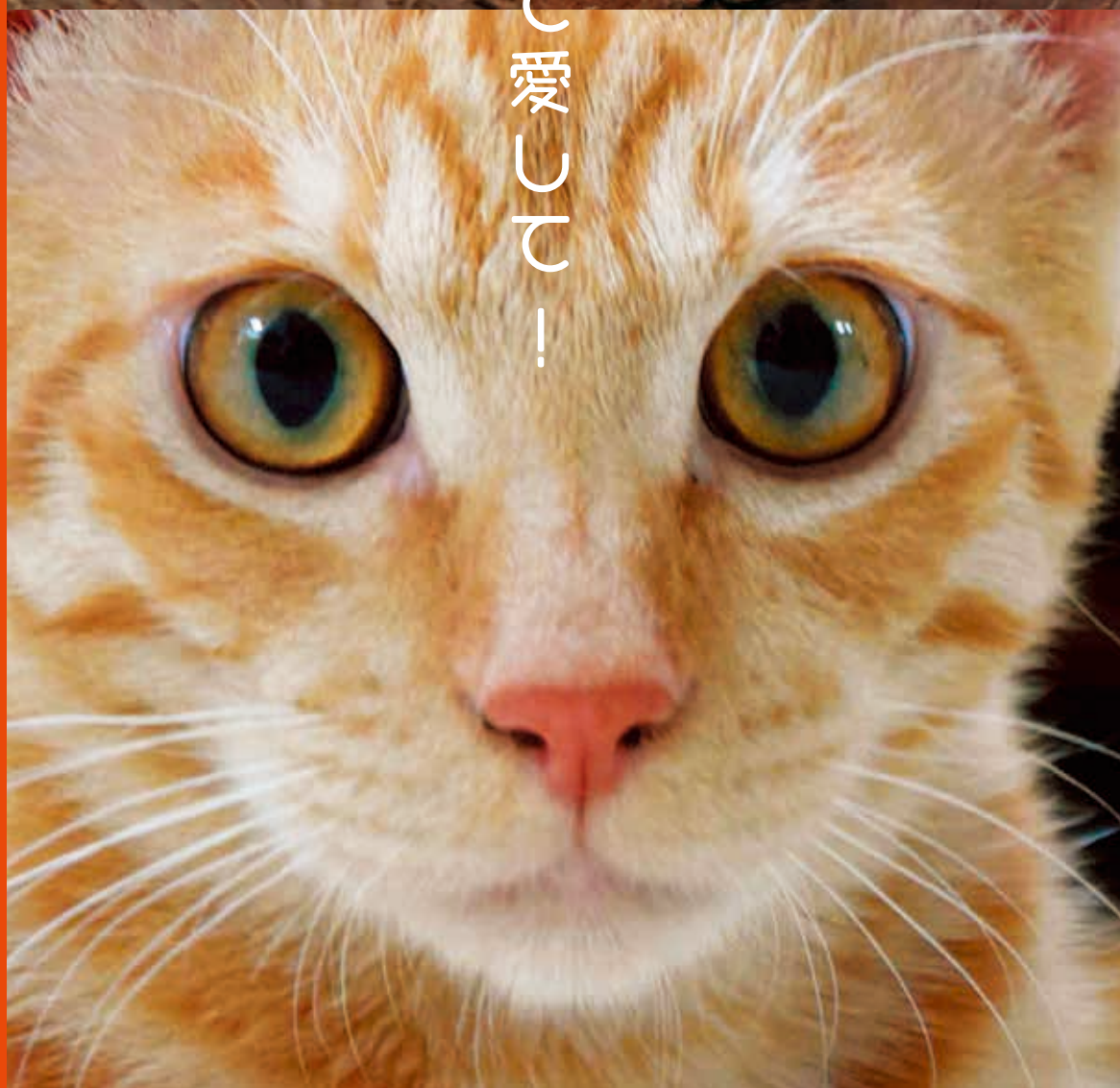
どうぶつの考古学

福島県立博物館

イノシシの顔が付いた縄文土器 東京都東久留米市 多聞寺前遺跡 東久留米市郷土資料室

ホネまで愛して！

余期
2019.9.7 [SAT] ⇒ 2019.11.17 [SUN]



私たちの祖先が愛した



6



5



3



1



7



4



2

まるでアニマル
ミュージアムだニヤ

ネコのミュウ



- ①土偶が張り付いた縄文土器 埼玉県深谷市 北塚屋遺跡 縄文時代中期 埼玉県教育委員会
- ②動物の顔が付いた縄文土器 東京都府中市 武蔵台東遺跡 縄文時代中期 東京都教育委員会 撮影 藤瀬雄輔
- ③へび文様の骨製品 千葉県千葉市 有吉南貝塚 縄文時代中期 千葉県教育委員会 千葉県指定文化財
- ④復元された縄文犬 栃木県栃木市 藤岡神社遺跡 縄文時代後期 栃木県埋蔵文化財センター 写真 栃木県立博物館
- ⑤カエル形角製品 岩手県一関市 貝島貝塚 縄文時代晩期 一関市博物館
- ⑥狩猟土器 福島県福島市 月崎A遺跡 縄文時代中期 福島市
- ⑦鳥形土器 神奈川県小田原市 羽根尾堰ノ上遺跡 弥生時代中期 小田原市教育委員会

秋の企画展

あにまるず

ANIMAL x Zoo

どうぶつ考古学



縄文犬「ごんた」
(八戸市博物館所属)

どうぶつは好きですか？みなさんの周りにはどんなどうぶつがいますか？
人と動物。人も動物。ずっとずっと前から大昔からみんなケンメイに生きています。
動物たちはとても身近で、そして人の暮らしにはなくてはならない存在です。
太古の昔から、人は動物のいのちをもらいながら、あこがれやおそれのまなざしも向けて生きてきました。
人と動物のかかわりは時代を映すカガミです。
時代によって地域によって人と動物との関係は変わり、動物の表現がみられる考古資料が全国から見つかっています。
この展覧会では、北は青森県から西は岡山県の遺跡から出土した縄文時代から古墳時代の動物造形品や角や骨でつくった道具を約200点展示しています。これら太古のモノにこめられた意味を探り、人と動物のつながりに触れてみたいと思います。
さあ、動物に生かされ、いやされ、動物を活かした私たちの祖先の世界に一步足を踏み出してみよう!!

動物たちが大集合!



- ⑧小像による狩猟文の須恵器 兵庫県小野市 勝手野古墳群 古墳時代後期 写真 兵庫県立考古博物館 兵庫県指定文化財
- ⑨土器になったクマ(クマ形土器) 岩手県花巻市 野原III遺跡 弥生時代前期 石鳥谷歴史民俗資料館
- ⑩頭に小鳥をのせた盾持ちのはにわ人 茨城県つくば市 中台遺跡 古墳時代後期 写真 (公財)茨城県教育財団
- ⑪はにわのムササビ 千葉県成田市 南羽鳥正福寺遺跡 古墳時代後期 写真 成田市教育委員会
- ⑫イノシシの牙製の首飾り 青森県五戸町 薬師前遺跡 縄文時代後期 五戸町教育委員会 国指定文化財
- ⑬ネコの足跡が付いた須恵器 兵庫県姫路市 見野6号墳 古墳時代終末期 写真 姫路市教育委員会
- ⑭はにわのシカ 千葉県市原市 御産目浅間神社古墳 古墳時代中期 写真 市原市教育委員会

◎展示構成

第1章 イノシシとシカの年代記

遺跡から出土する獣骨はイノシシとシカで大多数を占め、身近な動物であったことがわかります。ところが土器や造形品での両者の扱われ方には差があるようです。動物のデザインとシカの角で作ったシンボリックな道具から両者の関係がみえてきます。

第2章 狩りとイノリとオクリのマツリ

ヒトと動物の関係は、狩猟や漁労で獲物を獲得することから始まります。狩りの成功には、大漁へのイノリとももらった命の再生を願うオクリのマツリが必要です。遺跡から出土した狩りとマツリの道具、そしてふくしま縄文人の食を紹介します。

第3章 何これ?不思議!カワイイ!動物園

私たちの祖先は動物に関わる様々な造形品を作ってきました。その中には動物へのあこがれを形にしたものや、なぜそれを作ったのかわからないもの、ユーモラスな表情を持つものなどがあります。ちょっと変わったどうぶつ達に会いに行ってみよう!!キトラ古墳の「白虎」も登場!

観覧料：一般・大学生 700円
20名以上の団体 560円
高校生以下 無料

◎行事案内

- 講演会 10月12日(土)13:30~15:00 博物館講堂
「はにわの鳥から考える鳥と人のつながり」
講師 賀来孝代さん (南毛野文化財研究所 調査研究員)
- あにまるず×けんぱく映画会 10月20日(日)13:30~15:30 博物館講堂
「縄文にハマる人々」山岡 信貴 監督作品
あの話題作が急速上映決定!!会津で初上映!!
上映後、展示解説会を開催します。
- ミニ講演会と実演 11月3日(日・祝:文化の日)13:30~15:00 博物館講堂・中庭
「会津の空に鷹が舞う~鷹狩りの歴史と鷹匠の技」
出演:みちのく愛鷹の会 (はしたかのかい) のみなさん
- 「国史跡清戸迫横穴」3次元クラウドデータアーカイブVR体験
11月1日(金)~10日(日)企画展示室特設ブース
特別協力:東北大学総合学術博物館 ※体験は中学生以上となります。
ヘッドマウントディスプレイを使って、横穴の壁画をリアルに体験しよう。



企画展図録

「あにまるず どうぶつの考古学図鑑」

好評発売中 価格 500円(80ページ 変形A4版)
200点を超える豊富な画像と縄文の食やはにわの鳥についてのコラムなど、どうぶつの考古学について分かりやすい解説が盛りだくさん!!



企画展
レポート

夏の企画展

福島復興記念展 興福寺と会津

徳一がつかないだ西と東

会期：7月6日(土)～8月18日(日)

主催：興福寺と会津展実行委員会

(福島民友新聞社・福島中央テレビ・福島県立博物館)

「福島復興祈念展 興福寺と会津」徳一がつかないだ西と東」が8月18日に閉幕しました。平安時代初めに奈良の興福寺で学び、その後会津を訪れ、会津に仏教文化を根付かせた僧・徳一。徳一が結んだ興福寺と会津の縁をもとに、興福寺の寺宝と徳一ゆかりの会津の仏教美術などを紹介した同展に、多くの方にご来場いただきました。

本展は東日本大震災からの福島復興に寄せる興福寺の祈りから企画されました。その祈りを代表するのが、人々の苦しみを救済するという地藏菩薩像です。優しく微笑む地藏菩薩像に、多くの方が祈りや安らぎを感じられたのではないのでしょうか。その他にも、徳一が生きた時代に制作された東金堂四天王像、南都焼き討ちからの再建期に造られた慶派の仏像など、度重なる火災から寺宝を守り、何度も復興を遂げてきた興福寺の歴史と信仰の造形を福島で紹介できたことは、とても意義深いことだったと思います。また、徳一によってもたらされた文化や技術によって築かれていった会津の仏教文化を、改めて見直す機会にもなったと言えるでしょう。

本展に関連して、講演会・

イベントも多数開催しました。興福寺のザイレ晝映師より興福寺の歴史について、辻明俊師と奈良大学の今津教授より興福寺の文化財保全と未来への継承に関する取り組みについて、そして興福寺多川貫首より福島復興への祈りについてご講演いただきました。また会期中毎週末実施した展示



地藏菩薩像 興福寺蔵 平安時代 (10世紀)

解説会では、興福寺の僧侶による解説が行われた日もあり、ご来場の方々が聞き入っていらっしやった姿が印象的でした。
開幕日に行われた新義真言聲明三宝会のみなさんによる声明の荘厳な調べや、寺院や仏像からのインスピレーションによって作曲されている小馬崎達也さんとパンゲアのコンサートなど、多様な表現に触れる場にもなりました。参加型のイベントとしては福島の孔雀石でほとけさまを描くワークショップ (P5参照) や、仏像福笑いなどを開催。身近に楽しく、仏教や仏像に親しむ機会となったのではないのでしょうか。また新しい取り組みとして、夜の仏像鑑賞会を実施しました。夏の夕暮れに普段とは違う雰囲気博物館を楽しんでいただけただけなのではないかと思えます。様々な取り組みを通して博物館が、新しいものに出会う、より親しみやすい空間になるよう、今後も試行錯誤を繰り返して行きたいと思えます。

(美術分野：塚本麻衣子)



声明公演



展示会場のようす



展示解説会

ト
ント
ベ
レ
イ

福島の孔雀石で

ほとけさまを描こう

実施日：7月14日(日)

8月11日(日) ※追加

会場：エントランスホール

孔雀石は銅の二次鉱物（一度出来た鉱物が雨水などで変化したもの）で、鮮やかな緑色の特徴です。結晶の成長した様子が孔雀の羽を連想させることからその名が付いたようです。銅を採掘していた鉱山跡から見つかり、県内でも各地から発見されています。この孔雀石は銅の原料として、日本画の絵の具である緑青として利用されてきました。「そんな孔雀石の魅力を伝えたいな、だったら絵の具づくりがいいな、せっかく絵の具をつくるなら歴史を感じさせるものを描きたいな」とぼんやり考えていたところ、美術分野の塚本学芸員たちと組んで企画展「興福寺と会津」の関連イベントとして講座を開催することになりました。

まずは講座の準備のため、浜通りのとある鉱山跡へ出かけました。孔雀石は前述の通りに各地から発見されるのですが、岩絵の具づくりに適さない石の表面を薄く覆っただけのものがほとんどです。しかしここでは石全体が孔雀石となったものを採集することができました。わくわくして持ち帰った孔雀石を砕いてみたのですが、自然のものということで孔雀石に不純物（大部分



ワークショップのようす



採集された孔雀石



ワークショップのようす

は褐鉄鉱・鉄さびのようなもので鉄の原料として重要）が混じっており鮮やかな緑青になりませんでした。試行錯誤の末、砕いた後で弱い磁性（磁石にくっつく性質）を持つ褐鉄鉱を強力磁石で取り除くことにしました。

そうして7月14日の講座当日を迎えました。参加者の方々が孔雀石砕きに苦勞しながらもなんとか細かい粉末まですりつぶします。次に膠を水で溶いたものにその粉末を混ぜて、西会津の和紙作家・滝澤徹也さんに作っていただいた和紙にほとけさまを描きます。さらに中通りで採集してきた白雲母の粉末（日本画の材料にもなり、さらとも呼ばれる）をふりかけて完成です。多くの方々に参加していただいたこともあり、8月11日にもう一度講座を実施させていただきました。2回の講座を通して石好きの女の子やアーティスト志望の男の子などみなさんとても楽しく描くことができ、それぞれの作品の出来栄が素晴らしく驚きました。

県立博物館には色々な専門分野を持つ学芸員がおりますので、今後も異なる分野同士で連携した新しい試みをしていきたいと思えます。

（自然分野・猪瀬弘瑛）

博物館
実習報告博物館実習生とつくった
防災講座

実習期間：8月27日(火)～9月1日(日)

「ミニ防災講座 たのしいそなえ」

実施日：9月1日(日)

会場：エントランスホール

8月27日(火)～9月1日(日)の6日間にわたり博物館実習を実施しました。学芸員の卵である13名が実習に参加し、博物館の概要や、美術・歴史・民俗・自然分野などの実技実習、講座の立案や作成など様々な活動に取り組みました。資料の取り扱いを中心に実習を行い、生の資料を見たり触れたりすることは実習生にとって貴重な経験となったのではないかと思います。分野によって資料の取り扱いに差異はありましたが、博物館にとっての資料の重要性、作品や資料に対する思いやりや愛情をもって接することが大切であること、また「もの」から様々な情報を読み取り、記録することで初めて博物館「資料」として意味をもつことなど、実習を通して多くのことを学びました。また、実習生たちでミニ防災講座を企画・立案、準備も行い、自分たちで講座を開催しました。当日はポリ袋や新聞紙など身近な材料で雨ガッパやクッションを作りました。多くの家族連れの方々



防災講座(9月1日)でのひとコマ

や子どもたちに参加していただき、災害についての知識や防災の必要性を楽しく学んでいただきました。短い期間でしたが、実習生にとって充実した6日間となりました。以下に実習生の感想を掲載いたします。

・実習では貴重な経験を得ることができました。とりわけ「震災遺産」に関連するミニ防災講座の構想と作業は、博物館における教育普及活動に対して、自らがどのように関わっていくのかを知ることができ、博物館の教育活動と教育普及の意義を実感することができました。また、バックヤードでの作業や多くの資料を直接手で扱うことも貴重な体験であり、実りある6日間となりました。

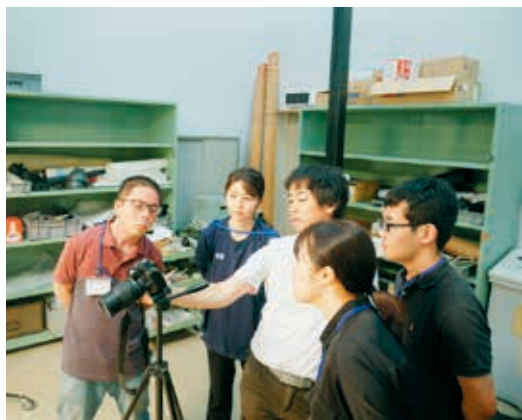
・「資料をよく知って仲良くなるのが大切」という学芸員の言葉が印象的でした。その資料がどのような製作方法でつくられたか推測することで破損しやすい部分やどこか予想できるという点も、さまざまな資料に共通していることだと思えます。今後資料を扱う際に常に気をつけておきたいことだと思いました。

・実習の中で感じたことは、学芸員は専門的な知識や技術が必要なことはもちろんですが、専門分野が違う人同士で展示会や講座を開くこともあるため、コミュニケーション能力や組織力も大切であることも分かりました。今回福島県立博物館で実習を行えたことは本当によかったと思っています。

(博物館実習担当：弦巻優太)



実習の様子(自然分野)



実習の様子(民俗分野)

テーマ展予告

けんぱくの宝2019—武の美

会期：10月19日(土)～12月8日(日)
 会場：常設展部門展示室「歴史・美術」
 観覧料：常設展料金でご覧になります。

福島県立博物館が収蔵する美術工芸品から代表的な資料を紹介している恒例のシリーズ「けんぱくの宝」展。今年度は「武の美」として、当館収蔵品の中から、福島県内で活躍した刀匠がつくった刀剣をご覧いただきます。

江戸時代、福島県内各地で刀匠が活躍しましたが、中でも会津は数多くの名匠がいたことで知られています。会津の刀匠からは、2代三善長道の脇差、幕末に活躍した11代古川兼定の刀など4振。いわきからは刀匠・根元国虎などの刀、脇差3振。その他、二本松の刀匠・古山弘元と江戸時代後期の白河藩主・松平定信のお抱え刀工であった手柄山正繁の刀も展示します。特別出品として、福島市を拠点に活動している現代の刀匠・藤安将平さんの大太刀もご紹介いたします。

福島は刀匠たちが、武の道具である刀に表した美。それは確かな技に支えられてもいました。命をかける武器だからこそ敬虔な想いでつくられたその姿をご覧ください。

会期中、藤安将平さんを講師にお招きして刀剣鑑賞講座と展示解説会を行います(11/23)。あわせてぜひご参加ください。

(美術分野・小林めぐみ)



刀 銘 会津刀匠和泉守兼定 個人蔵・当館寄託

特集展予告

震災遺産を考える

会期：2020年
 2月11日(火・祝)～4月12日(日)
 会場：企画展示室
 観覧料：無料

当館は2014年度から震災遺産の展示等を通じて震災を振り返る機会としてきました。東日本大震災から9年目に開催となる本特集展では、これまで当館が保全活動が続けてきた資料とともに、新しく調査した成果もご紹介いただきます。

子どもたちが震災を知り、日頃のそなえを見直す機会として、また自分事として考えられるように体験講座なども開催します。これからは震災遺産を通じて、地域の歴史と暮らしを主体的に考える場となることをめざします。

(震災遺産保全チーム・筑波匡介)



牛が餓死するまでかじった柱 (複製)



牛が空腹のためかじった柱がある牛舎



防災講座 たのしいそなえ

information

企画展 企画展示室 企画展料金

あにまふ ANIMAL X Zoo どうぶつの考古学

11月17日(日)

料金：一般・大学生700円、高校生以下無料

講演会(申込不要、無料、講堂)

「はにわの鳥から考える鳥と人とのつながり」

10月12日(土)13時30分～15時

講師：賀来孝代氏(倫毛野文化財研究所調査研究員)

「三」講演会&実演(申込不要、無料、講堂・前庭)

「会津の空に鷹が舞う」

11月3日(日)祝 13時30分～15時

講師：みちのく愛鷹(はしたか)の会の皆さん

「VR体験(申込不要、要企画展チケット、企画展示室特設ブース)

「国史跡清戸迫横穴 VR体験」

11月1日(金)～10日(日)9時30分～17時

特別協力：東北大学総合学術博物館

※参加は中学生以上になります。

「展示解説会(申込不要、要企画展チケット、企画展示室)

10月6日(日)・22日(火)・27日(日)・11月17日(日)

各日13時30分～14時30分

講師：当館学芸員

テーマ展 部門展示室・エントランス

大須賀清光の土津神社図・田蔵寺図屏風

部門展示室歴史美術 要常設展チケット

10月14日(月)祝

100年カエル館のときめくカエルアート図鑑

エントランス 観覧無料

10月27日(日)

けんばくの宝2019—武の美

10月19日(土)～12月8日(日)

部門展示室歴史・美術 要常設展チケット

祈りのふくしま

12月14日(土)～2020年2月2日(日)

部門展示室歴史・美術 要常設展チケット

ポイント展 総合・部門展示室 常設展料金

いわきの石炭をつくった植物たち

10月18日(金)

戦国武将の花押と印判②— 盧名盛氏

10月27日(日)

戊辰戦争をくぐりぬけた刀

11月1日(金)

相馬藩主の御料理番—魚や鳥を調理する作法

11月17日(日)

「巽(わな)—栗城弥平民具コレクション—

11月27日(水)

古い道具と昔のくらし—つくるまゐる・あらう—

11月29日(金)～2020年3月4日(水)

講座・実演他 ★は要申込

「館長講座(申込不要、無料、講堂)

「風土の旅—東北編」各日13時30分～14時30分

⑦「柳宗悦」10月18日(金)

⑧「岡本太郎」11月22日(金)

⑨「司馬遼太郎」12月19日(木)

講師：赤坂憲雄(当館館長)

【歴史講座】

「福島再発見！古文書講座」

10月26日(土)13時30分～15時

講師：高橋充(当館学芸員)

企画展先取り講座「ふくしまの旅」

①11月30日(土)13時30分～15時

②12月14日(土)13時30分～15時

講師：当館学芸員

【自然史講座】

★「化石標本をつくらう」

10月19日(土)13時30分～15時30分

講師：当館学芸員

★「鶴ヶ城の野鳥」

11月10日(日)13時30分～15時30分

講師：古川裕司氏(野鳥研究家)

【民俗講座】

「三」映画会「ふくしまの技と祭り」

①11月17日(日)「奥会津の木地師」

②12月15日(日)「金沢の羽山ごもり」

各日 10時30分

★「美術講座」

★「触って見てみる刀剣講座」

11月23日(土)13時30分～15時

講師：藤安将平氏(将平鍛刀場刀匠)

「聞いて見てみる刀剣講座」

11月23日(土)15時30分～16時30分

講師：藤安将平氏(将平鍛刀場刀匠)

「ちよっと不思議な仏教美術の世界」

12月21日(土)13時30分～15時

講師：塚本麻衣子(当館学芸員)

「ミュージアムイベント」

★「親子でやすらび子唄コンサート」

10月17日(木)10時～11時30分

出演：NPO法人日本子守唄協会の皆さん

けんばく映画会「縄文にハマる人々」

10月20日(日)13時30分～15時30分

講師：当館学芸員

【実演】

★「会津・三島の編み組み細工」

11月16日(土)10時～16時30分

講師：三島町生活工芸館伝統技術保持者の皆さん

★「漆を染しむワークショップ」

12月1日(日)13時30分～15時30分

講師：会津漆器協同組合青年部(皆さん)

※参加費・定員等の詳細は後日お知らせします。

【保存科学講座】

★講演会「裏彩色の極意」

10月14日(月)祝 13時30分～15時

講師：宮廻正明氏(東京藝術大学名誉教授)

★「和紙にふれる」(要申込、実習室)

12月7日(土)・8日(日)各日10時～16時

講師：鈴木晴彦氏(文化財保存修理技術者)

※参加費・定員等の詳細は後日お知らせします。

【その他】

「博物館でも読み聞かせ」

10月12日(土)11時～14時30分

講師：坂下読み聞かせの会の皆さん

11月9日(土)11時～14時30分

講師：おはなしのへやの皆さん(午後) たんぼの会の皆さん

★要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始します。異なる場合もありますのでご確認ください。電話もしくは受付カウンターでお申し込みください。

※その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

10～12月の休館日
 10月7日(月)・15日(火)・21日(月)・28日(月)
 11月5日(火)・11日(月)・18日(月)・25日(月)
 12月2日(月)・9日(月)・10日(火)・16日(月)・23日(月)・28日(土)・29日(日)・30日(月)・31日(火)

【お問い合わせ先】 福島県立博物館
 〒965-0807 会津若松市城東町1-25
 Tel 0242-28-6000 Fax 0242-28-5986
 HP https://general-museum.fcs.ed.jp
 Mail general-museum@fcs.ed.jp